

(様式) 府立松原高等学校 「学校協議会」 報告書 (第3回)

日 時	平成29年3月4日 (土) 14:00~17:00			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房本 晃	社会福祉法人 バオバブ福祉会理事	中須賀 久 尚	教頭
	吉川 年幸	松原市立第三中学校長	麦 田 伸 一	首席
	菊 地 栄 治	早稲田大学教授	伊 藤 あ ゆ	首席
	片 山 和 子	本校PTA会長	山 口 裕 子	人権教育主担
			木 村 悠	人権教育主担
	教職員等			
	林 茂樹 (摂南大学特任準教授)・森本 智美 (大阪府教育委員会 SSW) 田口 裕美子 (事務長)・深井 恵介・近藤 泰弘・李 未来・岩尾 勝 園田 愛理・島田 隼人・佐藤 智美・中川 泰輔			
おもな テーマ	1) 若者の支援について、高校のSSWとしてのかかわり 2) 43期1年「産業社会と人間」の取り組み報告 3) 協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	1) 若者の支援について、高校のSSWとしてのかかわり (森本氏) SSWの活動形態…年間24回、1回6時間 小中学校との違い…支援ができる最後のチャンス。保護者の育児支援よりも、自立に向けて生徒に直接働きかけて力をつけていく。卒業後を見据えた支援も。 SSWの高校における活動…生徒自身と誰かがつながり、信頼できる相手から関係機関につなげることが大切。また、関係機関につないで終わり、にしないためにも学校は生徒が活躍ができる居場所であることが大切。 2) 43期1年「産業社会と人間」の取り組み報告 (木村教諭) ・高校生のアルバイトの実態から始まった「ライツ」ジャンルの立ち上げ ・単なる損得でなく、権利を行使することで社会を作る主体として、身近に感じる工夫 ・産業社会と人間コンペティションでは松高版「みんなの食卓」等が提案された ○ 協議委員からのご意見、提言			
提言内 容・改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな支援制度が恩恵ではなく権利であることを、生徒の中にどう位置づけていくか、きっちり学習して拡げてほしい。保護者の所得によりもらえるもの、ではなく、書類の出ないいい加減さを許さない子を育てて。</li> <li>・SSWの導入は日本の学校文化にとって大きなエポックとなる。生徒に変化を求めることから、環境に変化を求めるようにはっきり言っている。一方で、専門化依存を強める懸念もある。</li> <li>・家庭に課題を抱えている生徒への取組の一層の強化が必要、特にSSWとの連携をこれまで以上に密にし、迅速かつ適格に対応していくことが大切。</li> <li>・「産業社会と人間」「課題研究」を通して、自らを見つめ、発信していける人材の育成に今後も取組んでほしい。</li> </ul>			